

## 2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 南小倉中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	① 北京オリンピック陸上競技日本代表 竹澤健介氏講演会 第2学年 78名 ② オリンピック・パラリンピック調べ学習 全学年 215名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科等名 ( 総合的な学習 保健体育科 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( )
4 目標 (ねらい)	・北京オリンピック陸上競技日本代表の竹澤健介選手との交流を通して、オリンピックやスポーツへの興味を深めるとともに、生涯に渡ってスポーツを楽しもうとする心を育てる。 ・テーマに沿った調べ学習を通して、オリンピックやパラリンピックについてさまざまな視点から理解を深める。
5 取組内容	1 「オリンピックから学ぶ 継続することの大切さ」についての講演会及び陸上競技体験の実施 12月11日(金)に北京オリンピック陸上競技日本代表選手で大阪経済大学陸上競技部ヘッドコーチである竹澤健介氏をお招きし、オリンピックやこれまでの自身の体験をもとに、継続することの大切さについて講演していただいた。さらに、実際に体を動かしながら、自分の体がもっている力を最大限に引き出すストレッチや体の動かし方について丁寧な解説を加えながら指導していただいた。 <事前指導> ・竹澤健介氏の経歴やオリンピック陸上競技についての学習 ・オリンピック・パラリンピックの競技全般についての学習 ・オリンピックかわる人についての学習 <事後指導> ・講演会、体験会を通して感じたことや考えたことの振り返り ・東京オリンピックへ向けて自分にできることを考え、それをクラスで共有 ・取組や生徒の振り返りを掲示物として掲示



【講演会・体験のようす】

## 2 オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるための調べ学習の設定

保健体育科の授業において、各学年でテーマを設定し、調べ学習を行い、1枚のレポートにまとめる学習活動を設定した。第1学年は「オリンピックの種目や歴史」、第2学年は「パラリンピックの種目や歴史」、第3学年は「オリンピック・パラリンピックをその種目以外の視点でまとめる」と、学年のつながりを意識して、各学年でテーマを設定した。また、完成したレポートの一部は、学校のオリパラコーナーに掲示し紹介した。また、文化学習発表週間で、全員のレポート掲示をした。



【オリパラコーナー掲示】



【文化学習発表週間展示】

## 6 主な成果

### 1 「オリンピックから学ぶ 継続することの大切さ」についての講演会と陸上競技体験会の実施

- オリンピックの体験談や努力から得られる喜びや気づき、困難や挫折に直面したときの考え方について知ることができたことで、将来の夢を実現するために自分に何が必要なのかを考えるきっかけになった。
- 継続することの大切さなど中学生にも共感できる話をしていただくとともに、体も動かすなど、楽しい雰囲気を実感を伴った講演会になった。
- オリンピックの競技に対する姿勢や努力を知り、また実際の体験を通じて、世界で活躍する「本物」のすばらしさを感じることができた。また、オリンピックとの交流をレガシーとして玄関前の展示スペースに残すことができた。



【オリパラレガシーコーナー】  
(玄関前展示スペース)



【取組や生徒の振り返り掲示】

	<p>【生徒の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目の前のことだけでなくその先のことを考えることが大切だと分かった</li> <li>・小さなことをコツコツと積み重ねることが大事だと思いました。</li> <li>・竹澤さんみたいにどんな状況になっても、目標に向かってこれ以上は無理とあきらめずに頑張ろうと思いました。</li> </ul> <p>2 オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるための調べ学習の設定</p> <p>○作成したレポートを文化発表週間の展示作品として掲示したことで、生徒の興味・関心を高めることができた。また、3年間のつながりを意識して学年別にテーマを設定したことで、さまざまな視点から東京オリンピック・パラリンピックに向けて、自分にできることを考えるきっかけになった。</p> <p>○調べ学習を通じた学習やオリパラコーナーの掲示を通して、オリンピック・パラリンピックについて、「する・みる・ささえる・しる」の視点で新たな気づきを得ることができた。</p> <p>【生徒が調べたテーマの一例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックに向けて開発されている技術</li> <li>・1964年東京オリンピックを支えた北九州市の技術</li> <li>・東京オリンピックでの日本のおもてなし</li> <li>・オリパラマスコットキャラクターに込められた思い</li> <li>・オリンピックの食事提供</li> </ul> <p>【生徒の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツはどんな人でも楽しめて交流することができるのがすごくいいところだと思うので、もっと他の競技も知りたくなりました。</li> <li>・パラリンピックはほかの競技と違っていろいろなルールがあるので、全員が平等に戦えて、個性のでもおもしろい競技だなと思った。</li> <li>・ボランティアについて調べてみて、来年オリンピックがあるときには、選手だけでなくボランティアの人も応援しようと思いました。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○コロナ禍での講演会であったため、感染対策を徹底した。</p> <p>○世界で活躍する「本物」に触れる機会を作るために、オリンピックによる講演会を行った。また、事前打ち合わせでは、キャリア教育の視点でも講演を行っていただくようにした。さらに、実感を伴う体験にするために、全員に体験活動をさせる場面を設定した。</p>
8 主な課題等	<p>○オリンピック・パラリンピック教育を学校全体の教育活動の一つとして、計画的に位置づけ実施していく必要がある。</p> <p>○活動を継続し、充実させていくためには、保健体育科だけでなく、全職員がオリンピック・パラリンピック教育についての理解をさらに深める必要がある。</p> <p>○3年間を見通した、課題の設定や実施時期を計画し、教材や実践が継続した取組になるような体制を整える必要がある。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、子どもが「する・みる・ささえる・しる」の視点で、自分になにができるかを考えさせる取組を行いたい。</p> <p>○選手だけでなく、コーチや大会ボランティアの方など、様々なスポーツに対する考え方に触れることができる機会を増やしていきたい。</p>